

崎 定 長 検

一級 さん

Vol.29

西郷四郎が教えてくれた 長崎の魅力

山田 一男さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそうです。
ざっくばらんに寄稿願いました。

初めに、東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福と早期の復興をお祈り申し上げます。

私の山田家の墓地には「姿三四郎」のモデルといわれている柔道家・西郷四郎の墓碑が建てられています。西郷四郎の妻・中川チカの妹が私の祖母で、濱口家に嫁いで、晩年には西郷四郎は濱口家の世話になっていたそうです。濱口家の三女が山田家に嫁いで、生まれた長男が私で、現在山田家がお墓を守っています。

四郎は大正11年、尾道市にて57歳で病死、遺骨は長崎市の大光寺にある中川・濱口家の墓に埋葬されました。戦後、地元の柔道関係者がこの事を知って、死没47年後の昭和44年、長崎における第1回国体「第24回国民体育大会」の開催に当って、長崎県柔道協会が西郷四郎を顕彰して墓碑を建立しました。その時から45年後となる今年は二巡目の「長崎がんばらんば国体・大会」が開催されます。皆さんで応援しましょう。また、西郷四郎は長崎游泳協会の創設に携わり、第1回有明海横断遠泳では監督を務めました。弓道、槍術、棒術、合気道などの武芸にも通じていたそうです。

昨年はNHK大河ドラマ「八重の桜」が放映さ

れ、会津藩家老・西郷頼母は西田敏行が演じていました。会津出身の四郎は明治21年、頼母の養子となり、西郷四郎と名乗ります。初代長崎県知事・日下義雄、初代長崎市長・北原雅長は共に会津出身であり、調べるほどに、長崎と会津との関係には明治維新前後の激動期の歴史を感じさせ、長崎は会津出身の方々が活躍できる魅力的な場所であつたものとおもわれます。

長崎はポルトガル、オランダ、中国・東南アジアとの貿易で栄えた港町で、豊臣秀吉時代から天領地となり、実質の支配は代官と町年寄の地役人が行ない、春はハタ揚げ、ペーロン競漕、夏は精霊流し、秋は長崎くんち、冬は冬至祝いとお祭り好きの「バカ」と呼ばれるほどに町人文化が繁栄しました。

幕末から居留地時代に活躍した人気の坂本龍馬とグラバー、大正期からの上海航路、悲惨な原爆など長崎が体験した歴史・文化を長崎に訪れる県内外の多くの観光客に知っていただくことが大切だと思っています。

また、世界新三大夜景に長崎が選ばれ、夜の長崎も魅力的です。



【プロフィール】

1951年長崎市生まれ
現在、長崎さくガイド
長崎歴史文化博物館ボランティア
趣味は市民マラソン、旅行



西郷四郎

戒名 星光院北州達居士
西郷隆盛「南州」に対して会津(北)の西郷「北州」と号したそうです

西郷四郎の後押しで受験し合格できた長崎検定1級は、チャレンジ4回目の結果で、私の自信となりました。長崎を訪れた観光客が「来て良かった、また来たい」と言われるように、長崎の魅力を伝えて行きます。